



筑波大学 人文・文化学群

人文学類案内 2027

College of Humanities



筑波大学人文・文化学群人文学類案内 2027

編集・発行：筑波大学 人文・文化学群 人文学類

発行責任者：佐々木 勲人

所在地：〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1

Phone・Fax：029(853)4001

発行日：令和8年7月6日

ホームページ：<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/>



ようこそ人文学類へ

—人間の見えない真実を探究する—

人文学類は「人間とは何か」という問いに向き合い続ける学びの場です。哲学・史学・考古学・民俗学・言語学といった、人間を理解するための基礎となる学問を広く学ぶことができます。

今から100年ほど前であれば、人は生まれた村から一步も出ずに、一生を終えることも珍しくありませんでした。そのような時代では、私たちは自分の村のしきたりや言葉だけを知っていれば幸せに暮らすことができたでしょう。しかし、今日の世界はどうでしょうか。グローバル化が進み、自分とは異なる背景や価値観を持った人々と接する機会が飛躍的に増えました。相手を理解できないことが対立や衝突を生み、それが自身の不幸へと直結する状況が日々の生活にあふれています。他者の歴史や宗教、言語、そしてそこに表れるモノの見方や考え方を理解することがこれまで以上に重要となっているのです。

人文学類の学びでは、先人たちが残した文献を深く読み解き、フィールドワークや実験によって得られた資料を丁寧に分析することを重視しています。そこから得られた知見をもとに、自分なりの仮説を立て、それを検証するというプロセスを経て、「人間とは何か」という問いに答える力を身につけていきます。この力は、異なる文化や価値観が複雑に交差する現代社会において、さまざまな問題を発見し、解決していく礎となります。

現在、人文学類には50名を超える専任教員が在籍し、専門性をいかした多彩な授業を展開しています。演習形式の授業が多いことも大きな特徴となっており、少人数でじっくり学べる環境が整っています。また、専門分野の垣根を越えて、他学類の授業を比較的自由に履修できることも魅力の一つとなっています。

人文学類の学びは、人が人としてどうあるべきかという普遍的な問いに

真摯に向き合うことのできる人材を育てています。

それはまさに、今日のグローバル社会において

真に活躍できる人材なのです。

神秘的で、魅力的な人間という存在に、強く

惹かれるみなさんを人文学類は心から歓迎します。

人文学類長 佐々木 勲人

CONTENTS

ようこそ人文学類へ	1	言語学主専攻	15
人文学類とは	2	一般言語学コース	16
留学制度	4	応用言語学コース	17
哲学主専攻	5	日本語学コース	18
哲学・倫理学コース	6	英語学コース	19
宗教学コース	7	卒業生の進路 就職と進学	20
史学主専攻	8	卒業生からのメッセージ	21
日本史学コース	9	人文学類に関するQ&A	22
ユーラシア史学コース	10	入試情報	23
歴史地理学コース	11		
考古学・民俗学主専攻	12		
先史学・考古学コース	13		
民俗学・文化人類学コース	14		

筑波大学 人文・文化学群人文学類

■昭和49年開設

定員※……………120名
現教員数……………51名

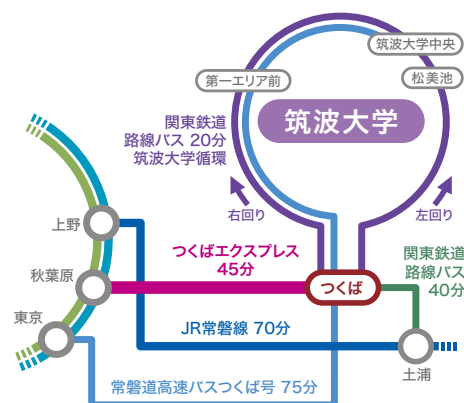
■令和8年度入学者

A C入試……………4名
推薦入試……………16名
外国学校経験者特別入試…5名
前期試験……………45名
後期試験……………20名
入学者……………90名

※定員1学年120名
1年次は、うち30名が総合学域群に所属



大学へのアクセス



人文学類とは？

筑波大学の組織

筑波大学には学生の所属する「学群・学類」という組織があります。サイズから言うと、学群は学部、学類は学科くらいに相当しますが、専攻の成り立ちから言うと、人文学類は人文科学の多くの分野をそろえていることから、学部と同等と考えてください。

「人文・文化学群」は、人文学類のほかに、比較文化学類、日本語・日本文化学類のあわせて3つの学類で構成され、学類をまたいだ科目の履修が可能です。それにより、人文科学の学問分野に幅広く触れることができます。詳しくは下記のウェブページをご覧ください。

<https://www.humcul.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学の教育組織（学生の所属）

学 群	学 類	人文学類	
人文・文化学群	人文学類 比較文化学類 日本語・日本文化学類	哲学主専攻	哲学・倫理学コース 宗教学コース
		史学主専攻	日本史学コース ユーラシア史学コース 歴史地理学コース
社会・国際学群	社会学類など	考古学・民俗学主専攻	先史学・考古学コース 民俗学・文化人類学コース
人間学群	教育学類など	言語学主専攻	一般言語学コース 応用言語学コース 日本語学コース 英語学コース
生命環境学群	生物学類など	大学院	
理工学群	数学類など	人文社会ビジネス科学学術院	
情報学群	情報科学類など	人間総合科学学術院	
医学群	医学類など		
体育専門学群			
芸術専門学群			
総合学域群	2年次より人文学類へ30名移行		

また、筑波大学は大学院も充実しており、卒業後も専門的に研究が続けられる環境が整っています。人文学類のほとんどの教員は、大学院人文学学位プログラムにおいて修士論文、博士論文の指導にあたっています。なお、3年次までの成績により、4年次に特別聴講学生として大学院の科目を一部履修することもできます。

人文学類の主専攻とコース

人文学類には、哲学主専攻、史学主専攻、考古学・民俗学主専攻、言語学主専攻という4つの主専攻分野があります。それぞれの主専攻分野は、さらにいくつかのコースに分かれ、人文学類全体では11のコースがあります。総合学域群から人文学類へ進むこともできます。

履修について

人文学類の授業科目は下表のように区分されており、カリキュラムにしたがって学修を進めながら、学士（人文学）の学位の取得を目指します。卒業時には、人文学の専門的知識、十分なコミュニケーション能力と想像力を有し、現代社会の課題に果敢に取り組むことができる人材となっていることが期待されます。また、目的をもってこれらの科目群を計画的に履修すると、将来への展望も開けてきます。たとえば、スペシャリストを目指す人は、専門科目を重点的に履修することができます（専門重点化）。ジェネラリストを目指す人は、関連科目として人文系だけでなく社会系、芸術系、理科学の

科目を広く履修したり、専門外の特定分野を集中的に学んで教養を深めたりすることも可能です（教養重点化）。教員を目指す人は、関連科目として教育学類の科目を意識的に履修すると付加価値が高まります（教職重点化）。国際派を目指す人は、共通科目として特定の外国語を鍛える科目を重点的に履修することができます（語学重点化）。

なお、所定の「教職科目」や「博物館学」の単位を修得すれば、教員や学芸員の資格が得られます。人文学類で取得できる教員免許状の種類と教科は、中学校一種と高等学校一種の国語・社会（高校は地理歴史、公民）・英語の普通免許状です。

人文学類の授業構成（令和8年度）

授 業 科 目 の 区 分		内 容	標 準 的 な 履 修 計 画				単 位 数	
専 門 基 礎 科 目		専門教育に必要な基本的な知識の修得	1年 ○○○ ○○○	2年 ○○○ ○○	3年	4年	11単位	
専 門 科 目		主専攻コースの専門的な内容の修得	○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	卒業論文 ○○○ ○○○ ○○○	54～ 88単位	
基礎科目	〈共通科目〉	総 合 科 目	ファーストイヤーセミナー 学問への誘い 学士基盤科目	○ ○ ○				1単位 1単位 1単位
		体 育	健康管理と体力増進	○	○			2単位
		第 一 外 国 語	外国語運用能力の育成(英語・ドイツ語・フランス語 中国語・ロシア語・スペイン語・韓国語)	○○○ ○				4単位
		第 二 外 国 語	外国語運用能力の育成 (上記外国語のうち第一外国語以外の言語)	○○○	○			4単位
		情 報	情報科学についての基礎的な能力の育成	○○○ ○				4単位
		国 語	日本語の文章作成技術の養成	○○				2単位
	〈関連科目〉	芸 術	芸術を鑑賞する力を培い自ら制作することを学ぶ科目	○	○	○	○	自由
		選 択 科 目	基礎的・入門的な科目	○○○ ○○○				6～ 34単位
					卒業単位124単位			
教 職 科 目		教員資格を得るために必要となる科目	○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○	○○○ ○○○ ○○○	教育実習	10単位を 限度として 選択科目に 認定	

※丸印は1単位を表し、各学年で履修する単位数のイメージを示しています。

筑波大学は69か国・地域の大学・機関と399の交流協定を結んでいます(2026年4月14日)。最近では以下をはじめとする大学に人文学類生が留学をしています。

- サントペテルブルク大学(ロシア)
- 北京大学(中国)
- 高麗大学校(韓国)
- キーウ国立大学(ウクライナ)
- カレル大学(チェコ)
- フランシュ=コンテ大学(フランス)
- 世界経済外交大学(ウズベキスタン)

協定に基づく交換留学の場合、授業料相互免除および単位互換制度があります。奨学金や単位互換制度など、留学に関する詳しい情報については、下記のウェブページをご覧ください。

<https://ssc.sec.tsukuba.ac.jp/ies-top>

■ 哲学・倫理学コース ■ 宗教学コース

私の留学生活 フランシュ=コンテ大学：フランス 卒業生 寺下 彩乃

大学附属の語学学校 CLA(Centre de Linguistique Appliquée)でフランス語の力をつけた後、大学の学部で授業を受けました。CLAには様々な国籍の留学生がおり、フランス人の友人に加えたたくさんの国籍の友人ができました。学校がない日でも一緒に料理を作ったり街に出かけたりして、交流を深めました。また、大学の国際交流団体のイベントにも積極的に参加しました。

授業中だけでなく日常生活のすべてにおいてフランス語を使わなければならないことに最初は不安を感じていましたが、活きたフランス語に触れながら自分もフランス語を使うことで、語学力向上をめきめきと実感できるため、勉強して楽しくかったです。自力で生活するため、また、友達との会話を心から楽しむため(語学力があるほうが、お互いの考えていることをより正確に伝えあえる)に必要な語彙や表現が、必要なものほど早く覚えられました。

今まで海外に行ったことがなかったため、何もかもが新しいことばかりでした。街を歩いていても、友人と話していても、何かしらの発見がありました。その結果として、日本にいたら考えないようなことを考えたり、今まで持っていなかった新しい視点を得たりすることができ、すごく嬉しかったです。さらに、それらが図らずも自分に返ってきて、自分自身のことも以前より分かるようになったような気ええるのは驚きでした。



『純粋理性批判』第二版扉

7世紀インドの仏教哲学者ガルマキールティ

哲学主専攻について

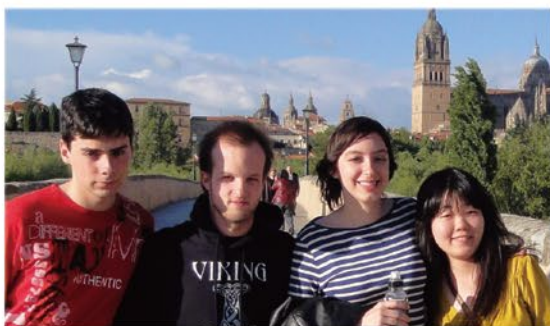
人文学類の「哲学主専攻」は、「哲学・倫理学」、「宗教学」という二つのコースに分かれ、時代的には、古代から近現代まで、また内容的にも、西洋思想のみならず、東洋思想や日本思想までカバーした全国でも有数の充実した学びの環境を提供します。学びのスタイルも、文献を緻密に読み解くものから実地調査を重視するものまで様々ですが、どちらのコースに所属しても他コースの授業を学修することが容易であり、質、量ともに申し分のない学修経験を積むことが可能です。

私の留学生活 サラマンカ大学：スペイン 卒業生 中川 紗智

大学では、スペイン語・スペイン文化を学ぶプログラムと、ラテンアメリカ地理やポルトガル史に関する科目を受講しました。授業は当然のことながら全てスペイン語で行われるため、ついていくのが大変でしたが、日本で学ぶのとはまた違ったアプローチの仕方が新鮮で、とても興味深く面白く感じました。授業以外でも、日本語を勉強しているスペイン人学生たちと言語交換(互いの母語を教えあうこと)を行い、一緒に食事をしたり遊んだりしながら語学力を上げることができました。

また、長期休暇中には、ヨーロッパ各国ーポルトガル、ドイツ、スウェーデン、フィンランド、バルト諸国などを一人で旅行し、様々な経験をしました。

それまで一度も海外に行ったことがなく語学もさほど得意ではなかった私ですが、留学生生活をおくる中で今まで知らなかった沢山の異なった文化や価値観に触れ、それらに体当たりでぶつかることで、自分のなかに大きく新しい世界が拓けたように思います。



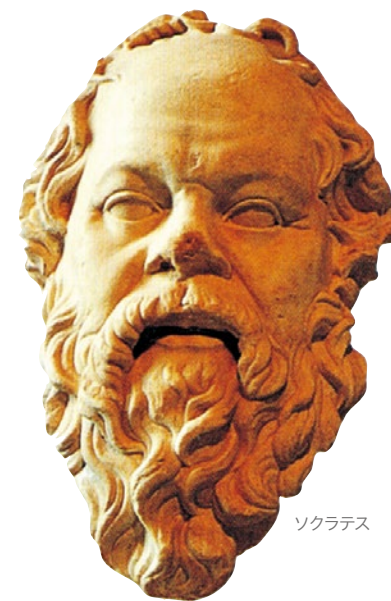
私の留学生活 大連大学：中国 卒業生 吉田 奏一

「大連ブレインターンシップ」は、大きく二つのプログラムから構成されています。留学を見据えた日本語学科の学生との交流と大連に進出している日本企業の見学です。

現地の学生との交流では、彼らと食事や行動を共にしながら、大連大学の学生が日々どのような生活を送っているのかという様子や日本語学科の授業風景を詳しく知ることができます。日本企業の見学では、大連に進出している様々な企業の方のお話を聞く中で、普段はあまり見ることができないような事業や商品開発の現場を見学させていただきました。

こうしたプログラム以外にも、ブレインターンシップでは比較的受講生が自由に行動できる時間も設けられており、発展著しい開発地区や大連市の中心地へと足を運ぶことも可能です。北京、上海…といった中国の他の都市とも違う街の光景は、きっと皆さんの目を惹くはずです。そして何より、中国では珍しいらしく…空気がキレイな街です！

海外に行ってみたいけど、なかなか足を延ばせない。学んだ中国語を実際に使える場所に行ってみたい。他でもない大連という街を見たい。そのような思いを持っている方は、ぜひ「大連ブレインターンシップ」に参加してみてください。



ソクラテス

哲学主専攻 Philosophy

哲学・倫理学コース

授業科目の例

■ 哲学特講 ■ 哲学史 ■ 哲学演習 ■ 倫理学特講 ■ 倫理思想史 ■ 倫理学演習



トマス・アキナス



デカルト



カント



福沢諭吉



檜垣 良成（西洋近世哲学と対話論）

身の回りを見ても世界を見ても、真理の探求としての哲学の重要性は増すばかりです。ともに探求しましょう。



千葉 建（西洋近現代倫理学）

倫理学を通じて、「善い人間とは何かを知る」だけではなく、「善い人間になる」手助けができれば嬉しいです。

「生きる」ことは「知る」ことと共に

教授〔西洋近世哲学と対話論〕 檜垣良成

人間にとって「生きる」ことは「知る」ことと共にありますが、人は、一定の「ものの見方（知り方）」を前提し、特定の「生き方」を選ばざるをえない生き物です。この世界（直）観ないし人生（直）観を反省し、真に自分のものにするとところに哲学・倫理学の真骨頂があります。

哲学することの醍醐味は、単に知識を増やすことにあるのではなく、自分が生きるうえで既に前提している原理（常識）を反省し、みずからの責任で再構築することにあります。現代世界の混迷を理解する鍵は、この意味での哲学の不在、人文学の軽視にあると思います。進むべき方向を見定める知性なしに私たちの未来はありません。しかし、このことは一人でできることではなく、他者との〈対話〉、過去の哲学者との〈対話〉を適切に積み上げることによって可能になります。哲学・倫理学コースでは、教員とコースメンバーが互いに助け合いながら、この「哲学すること」、「倫理学すること」を学んでゆきます。

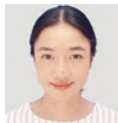
津崎 良典（西洋近世哲学）

フランス哲学の学びを通じて人間と人間を超えるものへの感嘆を新たにしてほしい。



西村 雄太（西洋中世哲学）

中世の哲学者の考えを真摯に学ばなら、私たちが自明のものとして忘却の彼方へと追いやった事柄の真の重要性に気付くことができるかもしれません。



常 瀟琳（日本思想）

異国のような他者性と、現在との連続性を併せ持つ日本思想史との真剣な〈対話〉を通じて、一緒に想像力を高めていきましょう。

哲学、倫理学はどんな授業？

哲学では、古代ギリシア哲学から中世ヨーロッパのトマス・アキナス、エックハルトらのキリスト教哲学を踏まえた上で、主にモンテーニュ、デカルト、マルブランシュ、ライブニッツ、デイドロ、カントなどの近世フランス、ドイツの哲学が現代哲学をも見据えて取り上げられます。

倫理学では、ベンサムやカントらの古典的な理論を踏まえた上で、メタ倫理・応用倫理・徳倫理など現代倫理学のさまざまな議論に及びます。さらに仏教・儒教・武士道など、東アジアおよび日本の倫理思想にも目配りがされることになります。

先輩たちの卒業論文

- ・プラトンにおける正義と幸福
- ・高邁の人—モンテーニュからデカルトへ—
- ・カント倫理学における嘘の絶対的禁止の位置づけ
- ・ベルクソンにおける客観性の問題
- ・生命倫理における「自己」領域の臨界点
- ・共苦の思想—親鸞と利他行—
- ・不安の中の実存—キルケゴール「不安の概念」研究—
- ・ヤスパースにおける〈限界状況〉と〈直観〉
- ・ハンナ・アーレントの「世界」について

コースの声



卒業生 坂本 航琉

皆さんが大学で最も「学びたい」と思うことは何でしょうか。情報処理の能力や世界情勢など、現代社会の一員として生きる私たちにとって学びの対象は多岐にわたります。その中でも哲学・倫理学コースでは、単なる知識に留まらない「知恵」を学ぶことができると私は考えています。この点こそが本コース最大の魅力であると言えるでしょう。

ここで言う「知恵」を学ぶとは、テキストに記された哲学者の言葉を知識として記憶して満足することではありません。そうではなく、テキストを基にして哲学者の思考に並走することで、自身の責任において揺らぐことのない知を求めること、その営みこそが「知恵」を学ぶということなのだと考えます。

そして、「知恵」を学ぶことにおいては、テキストと向き合うことに加えて、先生方や共に学ぶ学生との関わりを通じて、時に自己変容を伴いながらも自身の考えを問い直していくことが重要です。この過程であらためて自分を見つめ直し、本当の自分とは何かを考える機会があるということも本コースの魅力的な点であると言えるでしょう。

はじめは単に知識を記憶することと「知恵」を学ぶこととの違いに戸惑うこともあるかもしれません。しかし、自己変容を恐れることなく真摯に学び続けるならば、哲学・倫理学コースで「知恵」への道を進んで行くことができるはずです。皆さんが「知恵」を学びたいと強く思うならば、この道を進む価値は計り知れません。

哲学主専攻 Philosophy

宗教学コース

授業科目の例

■ 宗教学 ■ 宗教哲学 ■ 比較思想論 ■ 西洋宗教思想史 ■ 東洋宗教思想史 ■ 宗教学演習

現代社会から期待されている宗教学

宗教は科学技術の発展によって近い将来、消えてなくなると予想された時代がありましたが、この予想は裏切られました。中近東を中心にしたイスラーム復興、アメリカ合衆国におけるキリスト教ファンダメンタリズムの台頭、ロシアや東ヨーロッパの共産主義体制崩壊後のキリスト教再生などに見られるように、宗教は今なお世界の人々の心に生き続けています。一方、宗教は、国際紛争など世界が解決すべき重大な問題とも、また、いわゆるカルトなど私たちを困惑させる身近な問題とも深く関わっています。私たちの平穏な日常の支えになる宗教と様々な問題を引き起こす宗教はどのように繋がるのでしょうか。このように現代社会は多様な宗教現象に翻弄され、宗教に対する適切な理解を強く求めています。そしてこの要求に応じることを最も期待されているのが他ならぬ「宗教学」です。宗教現象の多様性・多面性に応じて、宗教研究には多様なアプローチの仕方があります。本コースでは、方法論や研究対象がそれぞれ異なる二人の教員が、現代世界の宗教状況が突き付ける問題を自分なりに受けて立とうとする学生諸君を多面的にサポートします。



志田 泰盛（インド古典学）

サンスクリット語を通じて古典インドの思想世界を覗いてみると、世界の見え方が変わってくるかもしれません。



土井 裕人（西洋古代の宗教思想）

思想を挙げるまでもなく、人間の関わる様々な領域を宗教抜きに理解しようとすることはできません。そこに宗教や宗教学を学ぶ面白さがあります。

コースの声



卒業生 石戸 美緒

皆さんは「宗教」を勉強すると聞いてどのようなことを思い浮かべますか。ある特定の宗教の教義を考察したり、宗教家の思想を探究するといったイメージを持つ方も多いかもしれませんが、それだけではありません。宗教は人間の文化や習慣などあらゆる行動の基礎となっています。さらに、宗教は古代

から現代にいたるまで人々の中に生き続け、時間的にも空間的にも大きな広がりを持っています。そのため、宗教を通して現代の問題にアプローチしたり、美術作品や演劇などの文化的要素から宗教の本質や思想を考えることも宗教学コースでなら可能です。つまり、宗教学コースでは幅広いテーマを扱うことができるということが特徴の一つと言えます。

私は、古代インドの物語集が宗教的要素を含むようになる過程を美術作品から研究しましたが、宗教学コースでは様々な研究対象を様々な研究方法で考察できるため、同じ宗教学コースの中でも多種多様な研究をしている仲間がいます。そこから、刺激をもらい、自身の研究に生かしたり、自らの考えを相対化ができるという点も宗教学コースの魅力でしょうか。

皆さんも宗教という切り口から、人間の本質や自らの問題意識について深く掘り下げてみませんか。



上：「東洋思想-a」の授業の様子
下：鳥根県での宗教学実習の様子

宗教学はどんな授業？

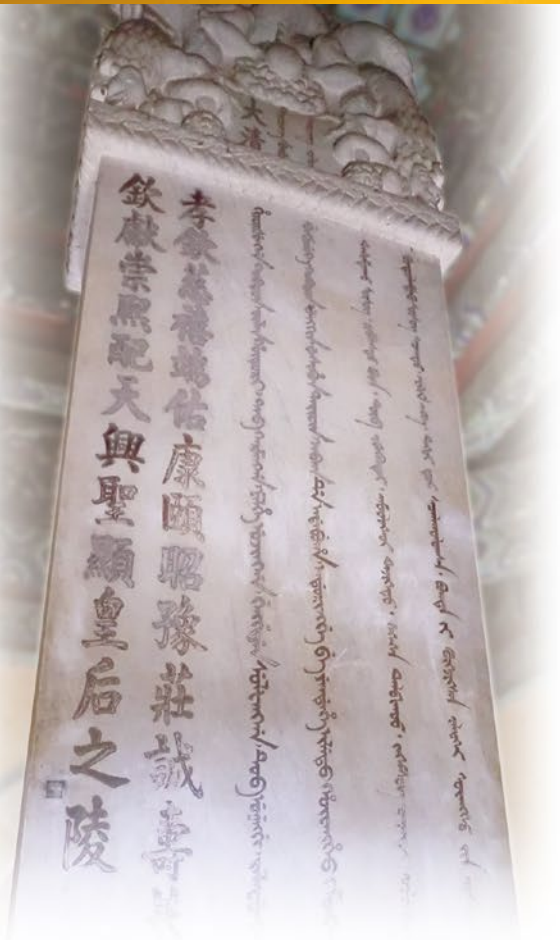
宗教を学ぶ上では当たり前にあるように思える「宗教」や「宗教学」ですが、必ずしも自明にあるものとは言えません。春学期はreligionに対する訳語としての「宗教」と元のreligionについて、語の成立から考えていきます。秋学期は宗教学の主要な学説をたどります。

先輩たちの卒業論文

- ・D・R・グリフィンによるプロセス有神論の発展としてのプロセス神義論
- ・加藤玄智における宗教と道徳
- ・仏教説話における夢の様相と変容
- ・明治初期における神道国教化政策の展開と挫折—島地黙雷の思想を中心として—
- ・20世紀絵画に内在する宗教性について—ジョルジョ・デ・キリコを参考に—
- ・古代インド思想とヘブライズムにおける「罪」概念の比較
- ・オウム真理教への信仰と葛藤—元教団幹部の一人を事例にして—

史学主専攻 History

■日本史学コース ■ユーラシア史学コース ■歴史地理学コース



▲清朝・西太后の陵墓の満蒙漢文碑



◀歴史地理学実習(志摩市)



▲古代メソポタミアの遠征図(前26世紀)

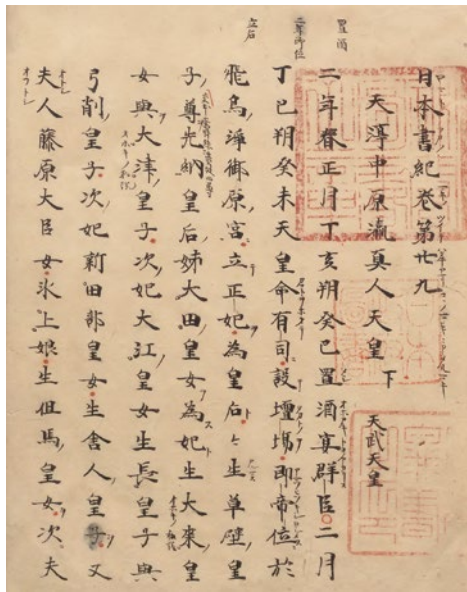
歴史学という営み

少し前まで、電車のなかでは、多くの乗客が紙の本や新聞・雑誌を読んでいました。ところが現在では、ほとんどの乗客がスマホを一心不乱に眺めています。ひとつの道具の出現によって、人間の振舞いと社会の光景は劇的に変化してしまったのです。ここには歴史上のひとつの「断絶」があります。同じような断絶は無数にあるはずですが、その多くは時間とともに忘れ去られていきます。断絶後の状況が、自明のものとして疑われなくなるからです。歴史学は、このような忘れられた断絶を発見し、当たり前と思っていた世界が、実は歴史上のある時点で生み出されたものであること、それ以前には別の世界が存在していたことを明らかにしようとしています。

古い時代に目を転じてみましょう。立ったままお辞儀をするという中国の作法が、「日本人」のあいだに定着し始めるのは平安時代です。この挨拶の流儀は、「日本人」の身体に深く浸透し、1000年以上経った現在も、列島に暮らす多くの人々の行動を無意識に規制しています。ここには歴史上の長い「連続」が認められるでしょう。歴史学は、このような埋もれた連続を掘り起こし、歴史のただならぬ慣性を再認識しようともします。歴史に目をこらすと、人間社会がなかなか変化しにくいこと、しかし変化するときには、あっという間に変わることがわかります。歴史学とは、はるかな過去と現在のあいだに、そのような「連続」と「断絶」を無限に見出す営みであるといえるかもしれません。

筑波大学人文学類の史学主専攻には3つのコースがあり、古今東西の歴史上のさまざまな問題を自由に探究できる環境があります。私たち教員とともに、歴史学の営みに熱意をもって参加してくれる学徒を待っています。

(三谷芳幸)



▲『日本書紀』の写本

史学主専攻 History

日本史学コース

授業科目の例

■日本史概説 ■日本史史料学 ■日本史特講 ■日本史演習 ■日本史実習 ■日本史研究

日本史学コースの目指すもの

教授 三谷 芳幸

若い皆さんのなかには、日本史学は古めかしい、時代遅れの学問であると思っている人が多いかもしれません。たしかに日本史学には、長年の研究の蓄積を重視する、伝統の学問という側面があります。しかし、この学問に今日的意義がないわけではありません。現在のようにフェイクが溢れている時代だからこそ、ファクトにこだわる歴史学が意味をもち、グローバルズムに覆われた時代だからこそ、世界的文脈のなかで「日本」とは何かを問いなおす日本史学が、改めて重要になってくるのではないのでしょうか。大学における日本史学の学びは、現代的課題を自分の頭で考えようとする皆さんに、確固とした知性の足場を提供してくれるはずです。

とはいえ、日本史学には日本史学なりの規律と技法があり、それを習得しないと、学問としての精髓を理解できないということも事実でしょう。私の恩師のひとりは、「日本史学は、地べたに張り付いてやらなければならない」と教えてくれました。のっぺりとした抽象空間に遊ぶのではなく、手応えのある「史料」や「事実」と格闘しながら、地道に過去の世界を再構成していかなければならない。そこに日本史学のむずかしさも醍醐味もある、ということなのだと思います。その醍醐味とともに味わうことができるよう、本コースでは、さまざまな専門的修練と、学生の研究課題への自由な取り組みを大切にしてきました。日本の歴史の深奥にたどり着きたい、という大きな志をもった若者たちが、本コースに集ってくれることを期待しています。

三谷 芳幸 (日本古代史)

日本史学は「広く深い素養の上にそびえたったものでなくてはいけない」(井上光貞)という精神を受け継ぎたいと思います。



田中 友香理 (日本思想史(近代史))

このような時代だからこそ日本史学に取り組みましょう。
中野目徹・田中友香理編『テキスト構築の史料学』(2025年、吉川弘文館)参照。



岩永 紘和 (日本中世史)

卒業論文執筆はその道を究めるプロを目指していく事とも言えます。大変な事も多いですが、仲間と共に高め合っていきましょう。

コースの声

4年 小倉 直途



日本史学コースは文字通り日本史を学ぶコースですが、今まで皆さんが取り組んできた高校までの日本史とは、少し異なるかもしれません。というのも、今まで学校で習ってきた日本史がある種の暗記科目であったのに対し、本コースで学ぶ日本史は、自らの問題意識に基づいて研究課題を立て、その課題に向き合うための史料批判や解釈の仕方を学んでいくものであるからです。

日本史学コースでは、主に1年生で履修する日本史概説や、2年生以降に履修する日本史特講・日本史史料学・日本史演習・日本史実習などの多くの科目が開設されています。日本史概説で日本史学の基礎を学んだ学生は、自らの問題意識・関心に基づいてそれぞれのゼミに所属します。ゼミ(日本史演習)では様々なテーマに基づいて各自が発表を行い、そこで行われる質疑応答を通して自らの学びを深めていくことが出来ます。また、発表者以外にも議論に参加することで、ゼミが日本史学研究の基礎を学ぶ場になっていくのです。こうしたゼミに加えて日本史史料学では実際に古文書の読解に挑戦し、ここで史料批判の方法を丁寧に学ぶことが出来ます。以上で挙げた日本史演習と日本史史料学は高校までの日本史では学ぶことが出来ないものであるため、大学で日本史学を学ぶ理由の一つになるかと思います。そして最後に4年生では、こうした様々な授業をおとして獲得した知識や技法を生かして、主体的に卒業論文の執筆に取り組んでいくことになります。

今ここで挙げた授業以外にも、人文学類では日本史学に関連した様々な授業が開設されており、多様な学びの場が提供されています。筑波大学では「IMAGINE THE FUTURE」をスローガンとしていますが、現在をみつめ、未来を描いていくためには、「過去を知る」歴史学の営みが非常に重要であることは言うまでもないでしょう。皆さんも日本史学コースと一緒に日本史学を学んでみませんか？



日本史実習

上:京都府城陽市正道官衙遺跡
下:新潟県燕市長善館史料館

日本史学を体系的に学ぶ

本コースでは、日本史学を体系的に学べるように授業が組み立てられています。まず「概説」で基本的な知識を身につけたあと、「史料学」で実践的な史料の読み方を習得します。それを踏まえつつ、専門的な研究方法に触れるのが「特講」、史料の読解に自ら取り組み、他の学生と議論するのが「演習(ゼミ)」です。さらに、歴史の現場を訪れる「実習」もあります。こうした段階的学習のうえに卒業論文の執筆があります。

先輩たちの卒業論文

- ・律令国家による僧尼統制の特質と展開
- ・日本古代地方軍制の展開と意義
- ・平安前期王権の家産機構と土地領有
- ・検非違使庁と京内の秩序維持活動
- ・明治前期の報徳運動
- ・戦間期日本海軍の宣伝政策
- ・昭和戦前・戦中期における厚生運動の実態
- ・戦後における宮内省改革

史学主専攻 History

ユーラシア史学コース

- 古代西アジア史サブコース
- 中国史サブコース
- ヨーロッパ・アメリカ史サブコース

授業科目の例

- アッカド語初級
- 古代西アジア史演習
- 満洲語文語基礎
- 中国史演習
- ヨーロッパ史概説
- ヨーロッパ・アメリカ史基礎文献講読



上：中国・清朝の銅銭
下：古代西アジアとエジプトとの間で交わされた「アマルナ書簡」

ヨーロッパ史概説はどんな授業？

心性（マンタリテ）をキータームとして、中世から現代までのヨーロッパの歴史を扱います。心性とは一言でいえば世界を理解する仕方であり、時代や地域によって大きく異なるものです。春学期では中近世を舞台に現代とはまるで違う心性のあり方を見ることで、私たちの「常識」を相対化することを目指します。秋学期では近現代の心性の歴史をたどることで、今度はその常識の由来を考えます。

先輩たちの卒業論文

- ・紀元前2千年紀後半のアッシリア国家行政における労働力管理
- ・紀元前2千年紀前半におけるイシュタルの性別逆転祭儀
- ・乾隆期清朝のモンゴル統治とトルグート東遷―「属地主義」への転換―
- ・中国の近代国家建設と女性―雑誌『婦女雑誌』を中心とした考察―
- ・国家はなぜユダヤ人を排除したのか―ナチス占領下フランスにおける反ユダヤ政策の政治的意味と協力の構造―
- ・奉公人運動をめぐるドイツ女性運動の対立

ユーラシア史学とは

「ユーラシア史学」という言葉に戸惑いを覚えた方も多いのではないでしょうか。従来の歴史学は、日本史学・東洋史学・西洋史学の三領域に区分されてきました。これは皆さんにも馴染み深いものでしょう。しかし私たちはあえてそうした伝統的区分を採らず、ユーラシア史学という耳慣れない独自のコースを設計しました。

それはこの三区分別が、三つの地域の閉鎖性をどこかで前提としているからです。いいかえればこの区分は、三地域が明確な境界線によって分断され、その閉ざされた空間の中でそれぞれ独自の文明を築いてきたという錯覚を生みかねません。しかし実際はそうではなく、人類はるか昔から文明をまたぐ広域的な交渉を連綿と続けてきたのです。

そうしたダイナミックな歴史の側面を切り捨てないためにも、私たちはユーラシア大陸で勃興したさまざまな文明と、そこから地球規模で拡散した諸文明（新大陸や豪州も含む）をも包摂した枠組みを設定することにしました。それゆえユーラシア史学という言葉には単にユーラシア大陸の歴史だけでなく、それをはるかに凌駕するスケールの「人類史」という意味が込められているのです。



柴田 大輔（古代メソポタミア史、楔形文字学）

古代メソポタミアの政治・社会・文化について研究しています。



山本 孟（ヒッタイト学、楔形文字学）

楔形文字で記された粘土板文書を読解し、紀元前2千年紀の古代アナトリアに存在したヒッタイト王国の歴史を研究しています。



上田 裕之（中国近世史）

中国近世の経済・財政について研究しています。既存の枠組みに縛られず、自分自身の眼差しで過去と現在の世界を読み解いていく―そんな挑戦に参加してくれる学生を待っています。



岩田 啓介（内陸アジア近世史）

清朝と中央ユーラシアの関係を、満洲語やチベット語の史料を用いて研究しています。中国史の一部としてではなく、満洲やチベット・モンゴルの歴史に正面から向き合ってみませんか。



村上 宏昭（ドイツ近現代史）

20世紀のドイツの歴史を研究しています。歴史を振り返ると、いま私たちが当たり前だと思っている多くの事柄が、実はつい最近まで存在しなかったことがよく分かります。歴史を研究する最大の魅力です。

コースの声



卒業生 **澤 奏子**

世界史の教科書には、多くの人々や国、民族の名前が書かれています。もし、その人たち自身の言葉で、彼らが生きていた世界を理解できたら、わくわくすると思いませんか。

筑波大学人文学類ユーラシア史学コースでは、史料や論文を読み解くための実践的な語学力を身につけます。英語だけでなく、独語や仏語などに加え、さらにはアッカド語や満洲語など、研究対象に応じた言語に挑戦します。

私はドイツ近現代史に興味があり、ヨーロッパ・アメリカ史サブコースを選びました。一年次から英語論文を一本読み通す授業に取り組み、二年次にはドイツ語で論文を読む授業を履修しました。三年次以降は自身の研究を深めるために、英語・ドイツ語を問わず自身の力で論文を読み進めています。母語ではない言語で論文を読むのは簡単ではなく、何度も立ち止まりながら向き合いましたが、第一次世界大戦の戦没者遺族が発した生々しい言葉を彼ら自身の言葉で知りえたときの感情は、今でも忘れられません。

外国史を学ぶには、研究対象の地域や時代、または研究が活発に行われている国の言葉等に向き合う必要があります。最初は難しく感じるかもしれませんが、その壁を越えたとき、これまで見ていなかった世界が広がります。ぜひ、外国語という壁の先にある歴史に触れてみませんか。

史学主専攻 History

歴史地理学コース

授業科目の例

- 歴史地理学概説
- 歴史地理学研究法
- 歴史地誌学
- 歴史地理学演習
- 歴史地理学文献演習
- 歴史地理学実習

歴史地理学とは何か

歴史地理学とは、あまり聞きなれない名称かもしれませんが。歴史学なのか地理学なのか、という疑問をもつ人もあるでしょう。

かつては、歴史学の補助分野として、歴史の舞台となった場所を考証することなどが、歴史地理学であると考えられていた時代もありました。しかし今日では、歴史地理学は学問の本質論や方法論からは、一般的に地理学の一分野として位置づけられており、地域や空間、景観、環境といった地理学で発達してきた基礎概念をふまえて、過去の人間集団が地表面をいかに組織し、生きてきたかを追究する分野として認識されています。簡単にいえば、地理学の観点から歴史を研究するのが歴史地理学であるといえます。本コースは、全国でも数少ない歴史地理学を専門的に学べるコースです。歴史学とは違った観点から歴史を研究してみたい、現在を研究する地理学とは関心が異なっていると感じる人には格好のコースといえるでしょう。



清水 克志（近代日本の歴史地理、食と農）

近代日本の食文化の変容について研究をしています。現地調査で得られた情報をもとに、さまざまな方法を駆使して、過去の現象を復原する歴史地理学の醍醐味を味わってみてください。



鈴木 修斗（移動の歴史地理、歴史GIS）

モビリティ（移動、移住、観光など）に関する歴史地理学研究を進めています。さまざまな史資料やデータを活用しながら、地域の歴史や人びとの暮らしの変化を、時間と空間の双方の視点からダイナミックに描き出してみませんか。

コースの声



4年 **穂坂 真澄**

「歴史地理学」とは、その名が示す通り過去を対象とした地理学であり、「地理」の空間的な視点と「歴史」の時間的な視点を合わせて社会に生起する現象を分析します。そのため、高等学校で地理総合・歴史総合が必修化した今、歴史地理学は、皆さんが学んできた知識や技能を余すことなく発揮できる研究分野と言えるでしょう。

そんな歴史地理学の最大の魅力は、実際に調査対象地域に赴き、聞き取りなどのフィールドワークを通して、地域の方々の証言を記録したり、新たな史料を発見したりして、そこからその地域の過去の営みを復原する点にあると思います。本コースの「歴史地理学実習」は、事前の史料調査や聞き取り先の選定、主題図の作成、報告書の執筆までを、学生主体で進めていくため、この魅力を実感できる良い機会になるでしょう。さらに、メンバーと協力して報告書を完成させる経験は、4年次における卒業論文の執筆においては勿論のこと、卒業後の人生においても「自身の強み」になっていくと私は思います。

また、研究対象が多岐にわたることも本コースの魅力と言えるでしょう。例えば現在では、城下町の都市構造、食卓にのぼる野菜や果物の食文化、人やモノの移動やそれを支えた交通網、災害・防災の歴史、古絵図の分析など、多様なテーマに着目した研究が展開されています。そのため、皆さんの多様な興味・関心・問題意識も、切り口次第では、歴史地理学の研究対象となるかもしれません。

「フィールドワークをしてみたい」「自身の強みとなるようなものを探したい」「自身の心惹かれるものを学問に繋げたい」と考えている方にとって、歴史地理学コースはおすすめです。



上：歴史地理学実習―福井市―
下：歴史地理学実習―尾道市―

歴史地理学実習はどんな授業？

歴史地理学の研究は、室内でのデスクワークと野外でのフィールドワークの両方から成り立っています。歴史地理学実習では、事前学習をふまえて調査地に赴き、野外での景観観察や聞き取り調査などの方法や、現地でしか入手できない文献資料（古文書など）の調査方法を学ぶとともに、調査結果を報告書としてまとめる能力を養います。

先輩たちの卒業論文

- ・札幌・小樽・余市における果実酒産業の展開
- ・戦後東京特別区における結核死亡率の減少と衛生行政
- ・近世宇和島城下町における武家屋敷の内部構造とその変容―歴史GIS分析を通して―
- ・明治後期以降における岡田式渡船の普及に関する研究
- ・戦後の渋谷区円山町における盛り場の空間構造
- ・ライフヒストリーからみた近現代における富山県売薬商の経営変遷
- ・下津井鷲羽山における観光地化と景観認識の変容

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

■先史学・考古学コース ■民俗学・文化人類学コース

現場から考える

民俗学 武井 基晃

考古学・民俗学主専攻は、先史学・考古学コースと、民俗学・文化人類学コースからなります。これらの学問はいずれも「人類学=Anthropology」という総合的な学問分野に統合できます。人類学とは、過去から現在そして未来において、この地球上の様々な場所に生きた人類について、そのあらゆる活動や思考などを研究対象とし、人文科学・社会科学・自然科学の知識を総動員して明らかにすることを目指す学問分野です。

研究・調査の手法をラボラトリーワーク、ライブラリーワーク、フィールドワークの大きく3つに分けたとき、先史学・考古学・民俗学・文化人類学にとって最も重要な調査手法は「フィールドワーク」です。先史学・考古学では、遺跡の発掘調査を通して、長い時間の中で蓄積されてきた遺構・遺物などの物質資料から、人類の行動様式や社会構造を明らかにします。また民俗学・文化人類学の研究も、実際の生活や儀礼などの場に足を運んで参加する現地調査を通して、そこでの観察や対話から、現在を生きる人類の多様な営みや暮らしの実態を考察します。

このようにフィールドワークから得られた現場の生の資料、何物にも代えがたい一次資料に向き合ってはじめて、独創的でおもしろい研究が可能になるのです。その際に、遺物の成分や年代を特定するための専用機材を駆使したラボラトリーワーク、対象地域の過去の歴史資料や学問分野の先行研究を渉猟するライブラリーワークも並行して行われます。

以上のように考古学・民俗学主専攻は、人類学を実践するために設置された、日本では数少ない特色のある専攻です。ぜひこの専攻で学ぶことができる広い視野と豊かな思考を礎に、次の時代を切り拓いてください。



▲民俗学実習(三重県)



▲イラク・シャカルテペ遺跡の発掘調査



▲考古学実習(土浦市武者塚古墳)

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

先史学・考古学コース

授業科目の例

■先史学概説 ■考古学概説 ■考古学方法論 ■物質資料研究法 ■先史学特講 ■考古学特講
■先史学・考古学外書講読 ■先史学・考古学演習 ■先史学実習 ■考古学実習

先史学・考古学とは？

考古学とは、文字史料ではなく、モノとして残る物質資料を手がかりに、過去の社会に迫る学問です。対象地域は世界全域に及び、扱う時代は人類の誕生から現代に至るまで、人類史の全期間にわたります。先史学は文字誕生以前の時代を扱いますが、考古学の一部であり、人文学類では先史学・考古学を1つの学問領域、1つのコースとして位置づけています。

先史学・考古学の特色は、モノとして残された確かな物証を扱い、数百年・数千年にわたる長い時間軸のなかで社会の変遷を辿ることで、人類史や文明史を総合的に構築できることにあります。また、文字史料には残されにくい人々の日常生活の実態に、住居や墓などの遺構、土器・石器・金属器といった遺物の研究を通して迫ることができるのも魅力の一つです。研究においてはフィールドワークが重視され、遺跡の発掘調査や古墳の測量など、考古学実習による野外活動に取り組むことになります。教員はそれぞれの専門分野を有していますが、本コースの学生は、地域・時代を問わず自由に研究テーマを設定し研究に励んでいます。



滝沢 誠 (古墳時代の政治と社会)

考古学は自らの手で歴史を解き明かす点に大きな魅力があります。皆さんも一緒に発掘に行きませんか？



谷口 陽子 (考古科学・保存科学)

ここには誠実にモノに対峙する時間と場があり、そしてそれを咀嚼し栄養にすることができます。広く深く思索しつつも楽しくかけがえのない時間を過ごしてください。



前田 修 (西アジア新石器時代の社会・石器研究)

モノには人間の思考や行動を形作る力が秘められています。遺跡や遺物として残されたモノを研究することで、過去の人々や社会がどのように作られたのかを覗いて見ませんか？



板橋 悠 (骨や植物遺存体の化学分析、古食性復元、年代測定)

モノの向こうには、作った人・使った人・贈られた人・本人など様々な人々の活動と思考があります。過去の人々を想像し、その姿を自分の手で実証していく楽しさを共有できればと思います。

コースの声



卒業生 相川 咲空

考古学と聞いて皆様は何を思い浮かべますか。砂漠で恐竜を掘る、お宝を発見する、など「掘る」イメージが強いのではないのでしょうか。実際の考古学とは、「人間の活動」について「もの」を手がかりに研究をする学問であり、そのための手段として発掘調査をおこないます。もちろん、お宝と呼ばれるような豪華な資料も扱いますが、多くの場合掘り当てる資料とは、そのほとんどが名も無き人々が日常で使用していたものです。はるか昔の誰かがつくりだし、使用したものを、

長い時間を経て現在を生きている自分が手にとる。このように、何百年、何千年もの時間を超えて名も無き誰かと出会うことができる点が考古学の魅力だと思います。

先史学・考古学コースでは、1年次から座学のみではなく、実践的に考古学の技術を学ぶ授業も受講します。そして2年次以上では、「実習」に参加し、発掘調査を経験することができます。また、ゼミにあたる「演習」のなかで、比較的早い時期から卒業論文を見据えて研究に取り組むことができる点は、本コースの特徴だと思います。授業の他にも、放課後を利用して学生主催の勉強会が開催されており、学年を超えてのコミュニケーションがとりやすい環境であると感じています。また、行政や他大学の発掘調査に参加する学生も多く、大学以外の場でも多くの方々と出会える点も本コースに所属して楽しいと思える瞬間です。

どんなに小さな土器の破片であっても、必ずその向こうに人間の活動があります。人文学にご興味をお持ちの皆様、考古学を通して、はるか古に存在していた「誰か」に出会ってみませんか。



上：考古学実習での常名天神山古墳の発掘(土浦市)
中：遺物整理の様子
下：先史学実習で彩色復元したフレスコ画

考古学概説はどんな授業？

人類の始まりから現代までを扱う考古学とはどのような学問なのか(春学期)、日本考古学ではいま何が議論されているのか(秋学期)について理解を深めていきます。

1. 考古資料とは何か
2. 年代を探る
3. 機能を推定する (以上、春学期)
4. 列島社会の統合と国家形成
5. 墓石から探る家族の歴史
6. 考古学と現代 (以上、秋学期)

先輩たちの卒業論文

- ・人物埴輪における顔面赤彩についての考察
- ・東日本における装飾古墳の地域性と性格
- ・福井県一乗谷朝倉氏遺跡にみられる甘渦・トリベの研究
- ・先史時代マルタ諸島における巨石神殿儀礼と信仰の研究
- ・西アジア新石器時代の貯蔵施設の研究
- ・露出展示による遺跡保存—保存技術の変遷と価値判断

考古学・民俗学主専攻 Archaeology & Folklore

民俗学・文化人類学コース

授業科目の例

■ 民俗学特講 ■ 比較民俗学演習 ■ 民俗史料講義 ■ 民俗学実習 ■ 民俗学調査法
■ 文化人類学講義 ■ 文化人類学演習 ■ 文化人類学実習 ■ 文化人類学調査法



民俗学実習

調査法と実習とは？

民俗学・文化人類学コースの学生（主に2、3年生）は年に1度、日本国内のどこかで調査をします。そこでのフィールドワークを通して生活文化を考察し、人々の思考と行動にふれ、自身の文化理論を試します。そのために事前に「調査法」の授業で十分な準備を積み重ね、それから実際に「実習」調査に向かいます。

先輩たちの卒業論文

- ・相馬野馬追をとともに駆ける馬と人の関係性
- ・囃子の伝承における楽譜をめぐる葛藤
- ・神社に集まり、学び、書く人のパブリック・ヒストリー
- ・ホップ畑の民族誌―体制転換を経たチェコ農村における労働の連続と断絶
- ・小規模グループケアの児童養護施設に見る個別性の調整
- ・プロダーツプレイヤーのダーツ観

民俗学・文化人類学の学び方

民俗学は儀礼・信仰・社会・経済などの伝承資料から日常の暮らしと文化を探索し、文化人類学は異文化の営みと我々自身の営みをシメトリックに研究する学問です。いずれもフィールドワークに基づいて、価値観を異にする人々の行動様式を生活文化の中で理解します。そのため専攻する学生は5日間の調査実習に2回参加し、その体験から自分自身で問題を発見し作業仮説を打ち立てて研究を進めることになります。

民俗学では対象の歴史的な深みを考察するため日本史学と連携した科目を組んでいます。文化人類学では古典的な理論から最新の科学技術論に至るまで幅広く批判的に学びます。こうして育まれた能力を用い、身近でありながら人間にとって根源的な経験を記述し理論的に考察する卒業研究に取り組みます。



中野 泰（民俗学「日本・東アジアの村落・生業研究」）

異なる社会における生活経験の魅力を民俗学から考えてみましょう！



武井 基晃（民俗学「歴史を伝え、神々と交渉する人々」）

民俗学の魅力は、何気ない日常の中にある問いの答えを、人々との対話や体験の共有から見つけていくことです。



中村 友香（文化人類学「南アジア・ネパールの医療人類学」）

異なる文化や生活を送る人々の中に身をおくことを通じて、自分の日常における違和感や不思議について、また「人の生き方」について一緒に考えましょう。

コースの声



4年 馬場 咲月

皆さんは民俗学と聞いて、どのようなものを思い浮かべますでしょうか。民俗学とは、人びとの日常生活や文化を対象に、「当たり前」とされている営みを見つめ直す学問です。祭りや伝統行事だけでなく、仕事や食事、家族のあり方など、身近な暮らしの中にある意味や価値を明らかにしていきます。そのためには、文献を読むだけでなく、実際に現地に足を運び、人びとの話を聞くフィールドワークが重視されます。現地での経験を通して、地域ごとに異なる生活のあり方や考え方に触れ、それらを丁寧に理解していくことが民俗学の大きな特徴です。

本コースでは、民俗学実習／文化人類学実習という授業があり、学生たちは興味関心に基づきながらフィールドワークを行います。私は2年次の実習では北海道でサケのふ化放流事業をテーマに、3年次の実習では三重県で女性漁業者の活動をテーマに調査を行いました。そして3年生以降は、卒業論文のための調査にも入ります。私は現在、伝統的な漁をテーマに、この漁がどのように継続されてきたのかを明らかにすることを目的として、漁師の方だけでなく、観光協会の方や博物館の学芸員の方など、多くの方にお話を伺いながら調査を進めています。それぞれの立場から語られる漁の捉え方は少しずつ異なっており、さまざまな視点からテーマについて考えることができています。これらのフィールドワークは、事前学習で準備していた通りに進まないことも多くあります。しかし、現地では人びとの話を聞き、その場で考えながら調査を進めていく中で、新たな視点や気づきを得ることができます。また文献だけでは捉えきれない現地の人びとの暮らしのあり方や生き方に触れることができ、民俗学という学問を通して私自身も大きく成長できたと感じています。

興味を持った方は、ぜひ民俗学・文化人類学コースを選択し、フィールドへと飛び出してみませんか。

言語学主専攻 Linguistics

■一般言語学コース ■応用言語学コース ■日本語学コース ■英語学コース

言語学とは

〔ベトナム語学・実験音声学〕 山岡 翔

我々人間の生活に言語は不可欠です。しかし、翻って言語そのものについて考える機会はありません。ではないでしょうか。言語学は我々が何気なく使用している言語に敢えて目を向けて、科学的に分析する学問です。

ではなぜわざわざ言語を分析するのでしょうか。少なくとも、自身の母語については話せるしもうすでに知ってるよ、と思われるかもしれませんが、言語を客観的に分析してみると、普段は気にも留めない実に様々な特徴・法則・傾向に気づきます。そこにはその言語におけるモノの捉え方・考え方が反映されていることもあります。さらに、この世界では6000ともいわれる数の言語／方言が話されますが、中には母語話者以外の人間が想像もしないような驚くべき概念／カテゴリーの区別を擁するものもあります。

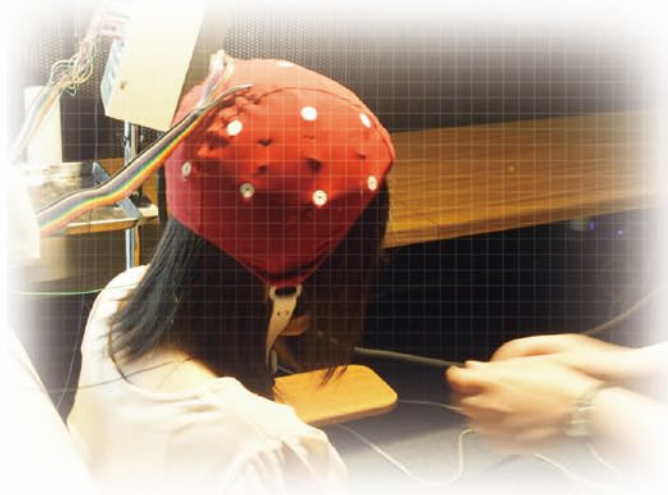
言語学の題材は日常の中にもたくさん転がっています。少しでも言語に意識を傾けてみてください。きっと、これまでになかった新たな視点が生まれてくるはずです。



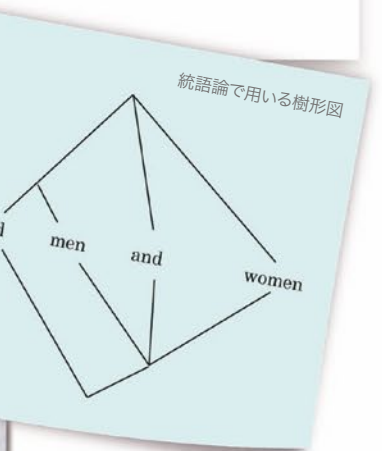
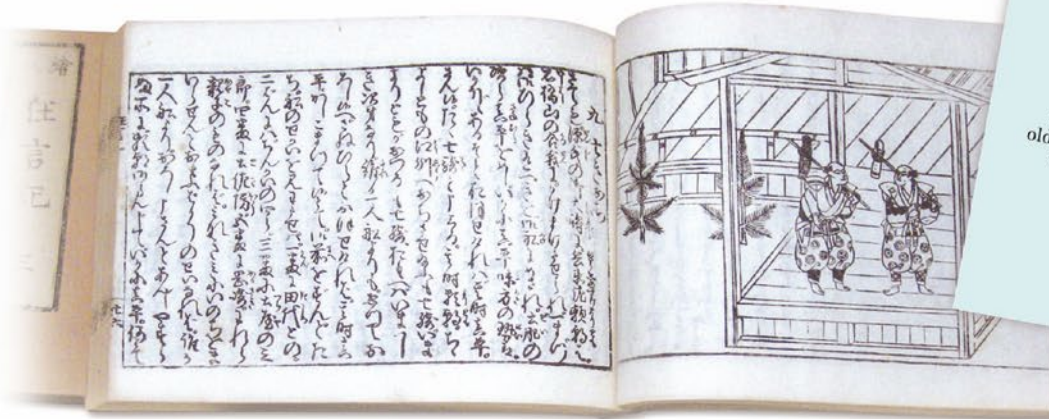
▲多言語で書かれたサイン



▲読み手の視線を測定する英文読解実験の様子



▲音声実験室での脳波測定の様子



◀『狂言記』（元禄12(1699)年刊)

一般言語学コース

授業科目の例

■ 実験音声学 ■ 記述言語学 ■ 歴史言語学 ■ 中国語学演習 ■ ドイツ語学演習 ■ ロシア語演習

一般言語学コースでの学び

〔ベトナム語学・実験音声学〕 山岡 翔

一般言語学コースでは二種類の学びが同時に実践できるカリキュラムを提供しています。ひとつめは、この世界に存在する多様な言語を分析するための言語学的方法論についての学びです。ふたつめは、中国語学・ドイツ語学・露語学をはじめとする個別言語の言語学的内容についての学びです。これら二種類の学びは互に関わり合っています。言語学的方法論について知っていても、対象となる言語への深い知識がなければ妥当で意義のある分析には至りません。逆に、単一の言語の知識だけでは、その言語について誰にでもわかるよう明解に解きほぐすのは難しいでしょう。

本コースには中国語・ドイツ語・ロシア語・韓国語・古代エジプト語(コプト語)・ベトナム語といった諸言語、および実験音声学・記述言語学・歴史言語学・言語類型論・意味論・語用論・対照研究・言語政策論・人文情報学といった諸分野を専門とする教員が所属しており、言語について様々な観点から考える授業を提供しています。



黄 賢暉 (音声学、日韓対照研究)

日本語と韓国語で子音母音の音声やイントネーションがどういうふうに現れ、人々の知覚にどのような影響を及ぼすかを研究しています。



宮川 創 (古代エジプト語史・コプト語、歴史言語学、言語類型論、自然言語処理)

歴史言語学および言語類型論の知見を軸に、文献の精読に基づくコーパス構築と自然言語処理ツールを用いたコーパス分析を通して、言語の歴史を解明します。



堤 智昭 (人文情報学、情報工学)

情報工学技術を使って、人文学を始め様々な分野の問題解決に取り組んでいます。



山岡 翔 (ベトナム語学、実験音声学)

ベトナムをフィールドとして音のことを考えています。フィールドに出ると視野がぐっと広がりますよ。



佐々木 勲人 (中国語文法研究、日中対照研究)

ことばの分析を通して中国人のものの見方や考え方の特徴を明らかにしています。



住大 恭康 (現代ドイツ語の意味論・語用論)

何が、言語表現の正しさ、適切さを左右するのか? ドイツ語を手がかりにその答えを探してみましょう。



臼山 利信 (露語学、言語政策論)

ロシア語の美しい響き、精緻な体系を持つ文法、ロシア語が話される中央ユーラシア独特の文化世界。魅力満載です。

コースの声



卒業生 森西 理温

私たちは普段、特に意識することなく言語を使っています。しかし、改めて言語について考えてみると、その緻密なシステムとバリエーションの豊富さに驚かされます。「ことばの不思議」について、様々な個別言語やアプローチを通して迫っていくのが一般言語学コースです。

私は1年次の終わりに短期研修プログラムでカザフスタンを訪れたことをきっかけにカザフ語に関心を持ち、卒業研究ではカザフ語の音声学を扱いました。その際、カザフ語は独学で学びながら、音声学を専門とする先生方の指導を受けて卒業論文を完成させました。このように、学生の関心に沿って、言語に関する幅広いテーマの研究を行うことができるのが、一般言語学コースの魅力の一つです。一般言語学コースでは、実験言語学や歴史言語学など、言語研究に関する諸分野の授業が開講されています。また、言語学的方法論について学ぶ授業だけでなく、個別言語の授業も充実しており、対象となっている個別言語への理解を深めるとともに、人間の言語についての幅広い視野を養うことができます。一般言語学コースの授業は比較的少人数のものが多く分、学生一人一人への丁寧な指導が受けられます。人間の言語に共通する普遍性と個別言語のもつ特殊性を探究するのは、非常に刺激的な営みです。皆さんも一般言語学コースで、身近でありながら奥が深い「言語」について考えてみませんか。

応用言語学コース

授業科目の例

■ 応用言語学概論 ■ 応用言語学講義Ⅰ～Ⅳ(応用言語学、教育言語学、社会言語学、文体論)
■ 応用言語学演習Ⅰ～Ⅳ(教育言語学、社会言語学、文体論) ■ 応用言語学特講Ⅰ～Ⅱ(教育言語学、社会言語学) ■ 外書講読

従来の学問領域の壁を超えた、学際的言語研究

教授 小野 雄一



応言の小道を探索しよう

応用言語学は、言語の使用 (language use) と習得 (language acquisition) を、個人および社会の両レベルから多角的に捉え、実社会における課題解決へとつなげる学問分野です。本コースは、特に言語運用・習得のメカニズムの解明を中心に据え、社会言語学分野と英語教育分野の知見を統合的に扱います。例えば、言語がどのように社会的文脈の中で使われるのか、会話の中に潜むメカニズムは何か、学習者がどのように第二言語を習得していくのか、どのような指導法が効果的か、そしてその過程にどのような言語学的・認知的要因が関与するのかを探究します。

研究手法としては、従来の理論的・記述的アプローチに加え、実験的手法(反応時間測定・視線計測など)、コーパス分析や大規模データ分析、さらには生成AIなどの最新技術を活用した言語研究・教育実践など、多様で先端的なアプローチを取り入れています。このような多角的な研究と実践を通して、言語教育の改善や多文化共生社会におけるコミュニケーションの課題解決に貢献する力を養います。応用言語学の最前線に触れながら、理論と実践を往還する学びをぜひ体験してください。



小泉 利恵 (スピーキング・外国語としての英語・日本語のテストについての研究)

社会にあふれるテスト。様々な場面で行われる評価。なぜだろうと思う点を深く掘り下げ、研究として高めていきませんか。



高木 智世 (社会言語学・ディスコース研究・会話分析)

社会における言語使用のあり方を具に見ることを通して、言語の社会的基盤、そして、人間の社会性とは何かを考えてみましょう。



小野 雄一 (第二言語習得・言語習得メカニズムに関する実証研究)

母語を基盤として新たな外国語を学ぶ際には、機械的な処理とは異なる人間の言語習得の実態に目を向けることが重要です。そして、それらの特性を踏まえた教育デザインについて考えていきましょう。



田川 拓海 (日本語学・文章研究)

現代の多様化した文章を見ることで「書きことば」「話しことば」について考えてみよう。



土方 裕子 (リーディング・ESP(特定目的のための英語))

日本人学習者が英文を読む上で顕く要因や、職業英語のカリキュラム開発に興味があります。オリジナリティの高い研究と一緒に目指しましょう。



柳沢 明文 (第二言語習得・語彙学習)

外国語の語彙習得を中心に、学習に影響を与える要因を研究しています。一緒に「効果的な学習法・指導法」について研究しましょう。



末森 咲 (第二言語習得・言語教育における心理)

教師と学習者の心理や関係性に関心を持ち、研究しています。心理的な観点から、質の高い言語学習について考えてみましょう。

コースの声



卒業生 高橋 明日香

「木漏れ日」という言葉が日本語にしか存在しないこと、それは日本人が古くから山々に囲まれた生活に由来することを知ったとき、言葉は人々の文化や生活に根差し、人は言葉というフィルターを通して世界を捉えているのだと実感しました。「木漏れ日」が日本人の自然への感受性を表すように、言語は単なるコミュニケーション手段ではなく、私たちがどのように世界を理解し、他者と繋がるかを形作る力を持っています。

高校生の時、外国の人々との交流を通して言語と社会の繋がりに関心を持った私は、多角的な視点から学びを追求できる応用言語学コースを志しました。授業はどれも興味深く、理論から実践的な内容まで学ぶことができました。また、学業や学外活動へのサポートが手厚いことも、魅力の一つです。3年生になる直前、コロナウィルスによって留学計画が崩れ、オンライン交換留学や休学留学をすることになり、不安を感じる時期もありました。しかし、ゼミの先生をはじめ、コースの先生方の後押しがあり、やりたいことをやりきる学生生活を送ることができました。

卒業論文では、実体験に基づき、オンライン環境下での英語学習者の学習行動と心理的要因を調査し、学習を主体的に習慣化させる方法について執筆しました。データ収集や分析は簡単ではありませんでしたが、国際学会に参加する機会もいただき、実りある研究活動ができました。現在は、応用言語学コースで得た知見と経験を活かし、言語教育や文化交流に携わる仕事をしています。皆さんも、自分なりの切り口で言語と世界との関係を追求め、未来を切り拓いてください。このコースには、それを実現するための環境が整っています。



上: 看板にある言語から文化を見抜く
下: 応言の思索の階段を上ってこないか

応用言語学講義Ⅳはどんな授業？

現代日本語を対象にした文章研究について、どのような手法やテーマ、課題があるのかを学びます。文字言語にはどのような特徴があるのでしょうか。新聞、小説、雑誌、ブログ、といった媒体による違いや共通点にはどのようなものがあるのでしょうか。XやLINEに書かれることばは「書きことば」と言えるのでしょうか。実際の文章の観察を通して言語学的に考える方法と基本的な知識を身に付けます。

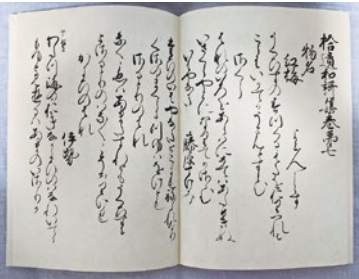
先輩たちの卒業論文

- Effects of Habit-Enhanced Assignment Design on Learning Behaviors and Psychological Factors of Japanese EFL Learners Under a Distant Online Learning Environment
- The Use of Spoken Discourse Markers by Non-Native Speakers: A Corpus-Based Comparative Study of Japanese and Polish EFL Learners
- Effects of Congruency on Japanese EFL Learners' L2 Collocational Learning
- 日本のアニメ映画の英語字幕における訳出ストラテジー—新海誠監督作品を題材にしたテキスト対照分析—
- 生成AIを用いた談話生成の研究—LINE談話の生成とその特徴—
- 認知症の人とケアワーカーの相互行為分析—グループホームのドキュメンタリー映像作品から—

日本語学コース

授業科目の例

■ 日本語学概論 ■ 日本語音韻論 ■ 日本語文法論 ■ 日本語史 ■ 日本語学講読 ■ 日本語学演習



『拾遺和歌集』
和歌も日本語研究のための重要な資料のひとつ



日本語学演習IIの授業風景

日本語についてどれだけ知っていますか？

私たちは、当たり前のように、日本語を話したり、読んだりしています。でも、日本語について、実際にどのくらい知っているのでしょうか？ 外国の人に、「女っぽい」と「女らしい」は意味がどう違うのかとか、「京都まで行く／京都に行く／京都へ行く」はどう使い分けるのかなどと聞かれても、なかなか説明することができないでしょう。古文を読んで、昔の日本語は、現在の日本語とずいぶん違うようだと感じていても、それがどのように今の日本語の姿になったのかについては、ほとんど知らないのではないのでしょうか。

日本語学では、万葉集や源氏物語といった昔の文学作品の日本語から、今行われている日常の会話まで、すべての日本語が研究対象になります。どんな音で話されるか、どんなきまりに従って文は作られるのか、どう書かれているのか、語の意味はどう変化しているのかなど、さまざまな方面から考えて行きます。なにより、言葉について、ちょっと気にかけてみる、どうしてなのだろうと自分自身で考えてみるといったところから、日本語学が始まります。



橋本 修（現代日本語・古代日本語の文法（意味論））

脳内現象としても、社会現象としても極めて興味深い存在である日本語を、多方面からつづき回しましょう。



那須 昭夫（音声学・音韻論）

日本語の音声・音韻、とくにアクセントなどの韻律現象について研究しています。「音の文法」の解明に取り組む魅力を学んでほしいと思います。



和氣 愛仁（現代日本語文法、人文情報学）

文系・理系という単純な二分法はすでに過去のものになりつつあります。両者を橋渡しするために何が必要か、一緒に考えてみましょう。



菅野 倫匡（文字・表記論、計量語彙論）

日本語の文字・表記や語彙について研究しています。言葉を数えることによって見えてくる面白さや難しさを体験してみませんか。



菊池 そのみ（日本語の文法史・語彙史）

言語資料を読むと、皆さんが使っている言葉との共通点・相違点が見えてくるはずですよ。そこから日本語の歴史を辿ってみましょう。

コースの声



卒業生 黒田 優月

日本語学コースは、その名のとおり日本語について研究するコースですが、これを奇妙に感じる人もいるかもしれません。「小学校から国語の授業を受けて日本語を学習してきたのに、なぜ大学でも日本語を研究するの？」と。

しかし、高校までの国語と大学で研究する日本語学とは扱う内容が大きく異なります。日本語学コースでは、文法・音韻・歴史・語彙・表記など、日本語に関するさまざまな側面についてさらに深く細かく学びます。

皆さんは、「古文にある昔の日本語はどのように変化して現在の日本語になったのだろう？」とか、「日本語の多くの方言にはお互いにどのような違いがあるのだろう？」といった疑問を抱いたことはありませんか？こうした疑問は、日本語という言語が私たちにとって身近な存在であるからこそ生まれるものです。日本語学コースの授業では、日本語についての基本的な疑問を大切に、それぞれに対する答えを探るとともに、さらに複雑な現象や問題を見つけ出していきます。

私の周囲には、古文の複合動詞や狂言の語法、現代日本語の動詞使役形の性質、新聞見出しの特徴など、日本語に関する多様なテーマを設定して研究に取り組む学友たちがいました。そして、学生一人一人の興味や関心に対して多くの助言と指導を与えてくださる先生方がそろっていました。このため、私も自分の研究課題に存分に取り組むことができました。少しでも日本語に興味がある皆さんには、日本語学コースでの学びを大いに勧めたいと思います。大学で日本語学を研究する空気をぜひ体験してみてください。

英語学コース

授業科目の例

■ 英語学概論 ■ 英語文法論・統語論 ■ 英語意味論・語用論 ■ 英語音韻論・形態論 ■ 英語論文講読 ■ 英語学演習 ■ 英語学論文演習

英語の仕組みを知り、人間言語を探る

教授【理論言語学】 島田 雅晴

言語研究は多岐にわたっており、特定の言語について深く知るための研究もあれば、様々な言語に共通する性質を探る研究もあります。みなさんが英語学コースで触れることになる英語学という学問分野は、そのどちらも行います。英語について、歴史、音声・音韻、形態、文の形式や意味、文脈内での使用法、習得過程などを研究することで、英語という言語の背後にある様々な仕組みがわかってきます。それと同時に、英語以外の言語の様々な現象に関しても、同じ分析手法を適用して共通の概念でとらえることができることに気づいていきます。これは、英語のしくみを知り、人間言語を探っていることにほかなりません。英語で書かれた基礎文献を読み、英語学の基礎知識や研究方法を学びながら英語で卒業論文を書いていく過程で、このようなことを体験していきます。英語学コースが開設する科目を中核としながらも、他コースや他学類の科目も履修してみてください。英米語圏の文学、文化、歴史、地理、思想などの勉強を通して、英語力を磨き、英語に対する幅広い知識を得ることは、英語学の研究を進めるうえで大きな力になります。また、心理学、数学、生物学、情報科学なども言語学、英語学に関連するところがありますので、ぜひ関心を持ってみてください。



島田 雅晴（理論言語学）

日常意識することがない、自然に身近に存在する物事に何か一つこだわってください。それが研究です。

宮腰 幸一（理論言語学）

表面的な言語現象の背後にある法則を科学的に解明する楽しさを学んでほしいと思います。

山村 崇斗（生成統語論、文法変化）

今の英語を他言語や昔の英語と比較すると見えてくる類似点や相違点を、生成統語論の枠組みで分析します。



矢澤 翔（音声学・音韻論・第二言語習得）

普通教育ではあまり学ぶ機会のない英語の音のしくみについて、ぜひ学んでみませんか。

コースの声



4年 萩原 郁将

みなさんは、「英語学」という言葉を聞いてどのようなことを連想したでしょうか？『英語』という言語について『学ぶ』というのはなんとなくわかるが、具体的にどんなことをするのかわからないという方が多いのではないのでしょうか？

英語学コースでは、中高で学んだ英語でも、英文学でもなく、「英語」という言語そのものについて、学び、研究することを目指します。端的に言うと、英語の文法、意味、音について詳細に考える分野です。説明だけ聞くと小難しいことをやっていると思われるかもしれませんが、学びのヒントは中高で学んできた英語にたくさん隠されています。英語学を学んでいくと、「なんでこういう風に言えそうなのに言えないのか」「イディオムって結局何？」というような、一度は抱いたことのある疑問を解決する手立てを得ることができるのです。

英語について学ぶことに抵抗感のある人もいるかもしれません。たしかに、英語学コースでは、1年生から英語論文に触れ、4年生の卒業論文は英語での執筆になるため、英語そのものへの苦手意識から、英語学コースへの進級を初めから諦める方もいることは事実です。しかし、その苦手意識そのものがすでに学びのチケットです。英語の習得ではなく、その背景を知ることを通して、知的好奇心を満たし、英語をもっと好きになってみませんか？

英語学概論はどんな授業？

英語学というのは、英語を対象とする言語学のことです。言語学とは、人間の用いることばの仕組みを明らかにする学問のことです。ことばには、音声があり、音声は意味を伝えます。そして、音声と意味を結びつけるのが文法です。音声にも意味にも文法にも一定の規則性があります。だからこそ、人間はことばで意思疎通ができるのです。英語をもとに、ことばの規則性について考え、英語自体への理解も深めることを目的とする授業です。

先輩たちの卒業論文

- A Cognitive Analysis of Inanimate Subject Constructions in Japanese and English
- What Is the Effective Way for Native Japanese Speakers to Learn English Plural Suffix Pronunciation? A Comparison of Grammatical and Communicative Approaches
- A Diachronic Study of Future *be* to
- Japanese Listener's Cue Weighting in the Perception of /w/ in English /r/-/l/ Continuum
- Effects of Learning Artificial Language on Second Language Acquisition
- Tracing Accent Shift: An Analysis of Zoe Sugg's Pronunciation Changes over Time
- Effects of Language Modes on Japanese Speakers' Production of English /θ/ Sounds
- A Syntactic Approach to English Ditransitive Constructions

卒業生の進路 就職と進学



人文学類におけるキャリア支援

1年生は入学した春学期にファーストイヤーセミナーが必修となっており、クラスごとに担任教員がついて大学生活への導入を図ります。ここではキャリア形成への導入も重視しており、4回程度を合同ファーストイヤーセミナーと位置づけ学外から講師を招くなどして早期からキャリア形成への意識を高めています。

また、全学では「キャリアデザイン」の科目が開講され、多くの人文学類生が履修します。これらの科目では、受講者間でのディスカッションやプレゼンテーションが重視されます。

ほか、筑波大学では「つくばキャリアポートフォリオ(愛称CARIO)」というツールをキャリア形成支援の中核としています。これは50種類以上のシートにより大学生生活を記録し、就職や進学までスムーズにつなげようとするものです。

一般企業就職への支援

人文学類独自に学生のための就職支援企画を行っています。外部講師による就職セミナーを複数回、また内定を得た4年生による「人文学類生のための就活最新情報取得会」を開催しています。学類での説明会のほか、数百家が参加する全学での学内企業説明会も行われ、有名企業に就職した多数のOB・OGから学内で直接話を聞き、他大学の学生より有利な就職活動を行うことができます。

公務員・独立行政法人職員試験への支援

こちらも、人文学類就職支援企画としてOB・OGによるセミナーや内定を得た4年生による報告会を開催しています。全学でもセミナーや格安で受講できる対策講座が準備されています。また、上記の学内企業説明会には一般企業だけでなく官公庁や独立行政法人からも参加があり、多様な話やアドバイスを聞くことができます。

中学校・高等学校教員採用試験への支援

本学ならびに人文学類が伝統的に強みを持つ進路です。OB・OGを招いたセミナーを学類で開催しているほか、全学でも教育界で活躍する本学関係者を招いた説明会などが行われます。

主な進路(法人格等は一部省略、令和5～7年度)

製造業

三菱マテリアル株式会社
ギガフォトン コナミ
鷺宮製作所 セガ
大日本印刷 ベンテる
理研計器

小売・食品業

イオンリテール サイゼリヤ
カスミ まいばすけっと
コカ・コーラウエストジャパン

商社・流通業

伊藤忠プラスチックス
住友倉庫 日鉄物流株式会社

金融・保険業

アイフル 北陸銀行
太陽生命保険 大和証券
日本カストディ銀行 常陽銀行
明治安田生命保険
メットライフ生命保険
三井住友銀行

通信・出版業

NTTデータフロンティア
講談社
日本出版販売
日本テレビ放送網

運輸業

遠州鉄道
東日本旅客鉄道株式会社
郵船ロジスティクス株式会社

サービス業

インテック 四谷大塚 KSK
スタッフサービス・ホールディングス
Z会
湘南ゼミナール
トライグループ
ベネッセスタイルケア
三菱HCキャピタル

その他

中部電力パワーグリッド
中日本高速道路
日本年金機構
日本郵政 日本郵便
鉄鋼業勤務 大橋 美朝

教員

公立小学校(茨城)
公立中学校(茨城、埼玉、千葉)
公立高等学校(新潟、茨城、群馬、静岡、新潟、岐阜、高知)
東京学館浦安高等学校
日出学園中学校・高等学校
屋久島おおぞら高等学校

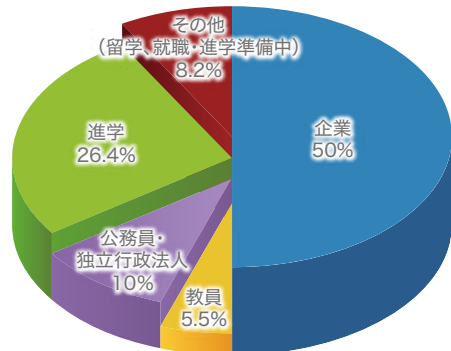
公務員等

外務省
厚生労働省
国土交通省
国土地理院
文部科学省
都道府県庁(青森、東京、茨城、長野、静岡、徳島、福岡、宮崎)
市役所等(つくば、土浦、宇都宮、川崎、横浜、静岡、長野)
国立研究開発法人科学技術振興機構
国立研究開発法人理化学研究所
筑波大学
信州大学
東京消防庁
東京地方裁判所
日本学術振興会

進学

筑波大学人文社会ビジネス科学学術院
筑波大学人間総合科学学術院
筑波大学理工情報生命科学学術院
大阪公立大学文学研究科
慶應義塾大学大学院文学研究科
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
東京大学大学院教育学研究科
東京大学大学院総合文化研究科
立教大学大学院文学研究科

令和7年度卒業生の進路



卒業生からのメッセージ



平成30年度卒(民俗学)
鉄鋼業勤務 大橋 美朝

人文学類は、広大な領域の人文学を自由に学べる環境です。膨大な資料や書物の中から自分自身の生きる哲学を見出していくことができるでしょう。その中で、あえて私は文字資料からは見えない領域を扱う民俗学を専攻に選択しました。フィールドワーク経験を通して、私は人の人生の多様性と、社会の複雑さを知りました。抽象的な理想では片付けられない、込み入った事情を抱えながら生きている人々との対話を繰り返すことで、目の前の現実をただありのままに見ることの大切さを痛感しました。

学生時代を、自分の学びたい事柄や好きなことばかりに費やさないほうがよいと私は思います。自分が限定的な視座に立っていることに気づくこと、解釈する思考を取り払ってしまうことも大切です。フィールドワーク実習を通して鍛冶職人の方々に出会い、「現場」の技術者に惹かれた私は、鉄鋼業界に志願し、山口県に工場を擁する企業に就社しました。民俗学を学んでいなければこの御縁はありえなかったと確信しています。



平成26年度卒(日本語学)
大東文化大学 外国語学部 日本語学科 講師
大塚 貴史

私は人文学類で言語学を専攻し、特に日本語学を学びました。しかし、入学時から日本語学や言語学を学びたいと思っていたわけではありません。それどころか、恥ずかしながら人文学類がどのような学問を学ぶところなのかもあまり分かっていませんでした。

そんな私ですが、大学卒業後は大学院に進学しました。お世辞にも積極的な気持ちを持って入学したとは言えない私が、半分偶然のような形で触れた学問に対して「より深く学びたい」と思うようになった背景には、先生方の存在があります。先生方は講義の中で、日本語に多くの興味深い現象があることを丁寧に説明してくださり、日本語について考えることの面白さを教えてくださいました。そして何より、先生方がとても楽しそうに講義をしてくださる姿が魅力的でした。そんな先生方に影響され、今、私は日本語学の研究と教育に携わる職に就いています。

人生を変える出会いというのがあるとすれば、私はそれを人文学類で経験したと思っています。みなさんにもそんな出会いがあるかもしれません。



平成26年度卒(日本語学)
一般社団法人共同通信社 校閲専門記者
西村 悠

私は言語学主専攻日本語学コースで学び、卒業論文は、鹿児島県・奄美群島出身の祖父の体験談を元に「危機言語・奄美語の実態と継承」というテーマで執筆しました。入学当初は国語の教員を目指していましたが、普段なにげなく使っている日本語の面白さについて熱く語る先生方の授業を受ける中で、時代によって移り変わる「ことばの正しさ」をより追求めることのできる仕事に就きたいと考えるようになりました。

卒業後は校閲専門記者として共同通信社に入社し、現在は2人の子どもを育てながら、フルタイムでシフト勤務に入っています。慌ただしい毎日ですが、職場だけでなく、わが子の幼児ならではの言い間違いや、街なかで見かける誤植など、身の回りのことばに新しい発見をしています。日常生活でも学問を楽しむ姿勢は、人文学類の先生方から自身もその分野が好きでたまらない気持ちがあふれる授業を受け、仲間たちと充実した学生生活を送ったからこそ培われたものです。

皆さんも人文学類で、興味のある分野を探索してみませんか？学問の面白さを余すことなく伝えてくださる先生方や先輩方が、皆さんのことを待っています！



平成30年度卒(歴史地理学)
茨城県中学校社会科教員 古藤 直輝

私は人文学類で歴史地理学を学び、今は中学校で社会科を教えています。中学校では生徒の多くが、「なぜ社会科を勉強しなければいけないのか？」と質問してきます。しかし、私がその場で「現在や未来に生かすことができるから」などと答えても、生徒はあまり納得しません。それでも、授業の中で「あ、だから社会科を学ぶのか」と生徒が時々思えるような授業を展開できるようになったのは、人文学類で歴史地理学を学んだことが根本にあると思っています。

「現在は過去の積み重ねである」と先生がよく仰っていました。歴史地理学では事前のデスクワークを踏まえ、フィールドに出て現地の景観を観察したり文献資料を調査したりします。デスクでの学びとフィールドでの学びの両方をつなぎ、過去と過去、さらに過去と現在とを結び付けながら研究を進めます。だからこそ、過去や現在の人間活動を扱い、未来を創る子どもたちを育てる社会科の教員として、人文学類での学びは大変有意義でした。今後も人文学類での学びを生かし、子どもたちに接していきたいと思います。

人文学類に関するQ&A

希望通りの主専攻・コースに入れますか？

入れます。3年次に進むときに正式な主専攻と専攻コースの決定を行います。当該専攻コースで定められている専門基礎科目等の履修が済んでいれば、希望通りの主専攻および専攻コースに入ることができます。

主専攻・コースの途中変更は可能ですか？

可能ですが、やはり、変更先のコースが指定する専門基礎科目が履修済みであることが必要です。変更前と変更後のコースが指定する専門基礎科目に重なりが少ない場合は、4年での卒業が困難になる場合があります。

取得可能な資格について教えてください。

所定の教職科目を履修すると、中学校及び高等学校教諭一種の教育職員免許状取得のための資格を得ることができます。人文学類で取得できる教員免許状の教科は、国語、社会(高校は地理歴史、公民)、英語です。
また、「博物館学」等の単位を修得すれば、学芸員の資格を得ることができます。

語学教育の内容について教えてください。

1～2年次にグローバルコミュニケーション教育センター(CEGLOC)で開講されている外国語を学びます。人文学類生の多くは英語、および、それ以外の外国語を1つ履修します。
英語は1年次に4単位履修します。CEGLOCの英語は「読む、書く、聞く、話す」の4技能のバランスに配慮し、創造的思考力、国際社会への対応力、および、学術的活動に必要な言語運用能力の基盤を養成することを目標としています。
また、第1外国語とは異なる外国語を英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語から選択し、2年生までに4単位を履修します。
筑波大学では、共通科目の外国語として様々な言語が学べる環境が整っていますので、未知の外国語の学習にも積極的に取り組み、多様な言語・文化に触れ、視野を広めてください。

また、CEGLOCのメディアライブラリーでは、たくさんの語学視聴覚教材や、外国語学習に適した映画やドラマ等のDVDが自由に利用することができ、CEGLOCアカデミックライティングサポートデスク(AWSD)では、チューターとの共同作業を通じて創造的・批判的な書き手となるための支援が受けられます。自分のペースで楽しみながら学習し、どんどん語学力を伸ばすことが可能です。
人文学類の専門教育の中で学ぶことのできる言語としては、日本語、中国語、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、満洲語、サンスクリット語、ヘブル語、アッカド語、コプト語、チベット語、ヒッタイト語、ベトナム語などがあり、他大学ではなかなか学ぶチャンスのない言語も含まれています。
なお、人文学類生に限らず、筑波大学の学生は入学時と3年次にTOEIC-IPテストを1回ずつ受験することになっています。

文系は就職が不利ですか？

一概にそうは言えないと思います。最近の就職先については本冊子の20ページをご覧ください。

留学制度はありますか？

あります。詳しくは本冊子の4ページをご覧ください。

その他のQ&Aは下記のウェブページで読むことができます。
<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/faq>



留学先の例(ハイデルベルク大学)

入試情報

定員

1学年120名
※1年次は、うち30名が総合学域群に所属

入学者選抜方針(アドミッション・ポリシー)

教育目標		人間が引き起こすさまざまな社会問題や人類が直面する課題に対し、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学などの人文学の知見を基盤にして想像力をもって主体的に応え、また、人文学をそれに耐えうる学問分野として維持し発展させることができる人材を養成します。
求める人材		人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し解決していく能力と意欲を有する人材。
入学までに学んでおいて欲しいこと		人文系の学問の基礎となる言語や社会に関する学科について十分な能力を習得し、希望する専攻分野に関連する他の学科についても基礎的な知識を有していることが望ましい。
入学者選抜方針	個別学力検査(前期)	入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。
	個別学力検査(後期)	論理的な思考力と表現力を持つと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	推薦入試	高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。
	AC入試	人文系の学問に関わる専門的知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	人文系の学問に強い関心を抱くと同時に、旺盛な知識欲と探究心を持ち、よりグローバルな観点から新たな問題提起をなし得る発展性のある人材を選抜します。
	外国学校経験者特別入試(第1種)	人文系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。

入試スケジュール

- 10月：AC入試(アドミッションセンター入試)
- 11月：推薦入試・国際バカロレア特別入試・外国学校経験者特別入試(第1種)
- 2月：個別学力検査(前期)
- 3月：個別学力検査(後期)

※令和10年度(2028年度)からの入試に変更があります。
詳しくは本学アドミッションセンターのウェブページ(<https://ac.tsukuba.ac.jp/>)をご覧ください。

本学のアドミッションセンター窓口(本部棟2階)で入試関連資料が入手できます。

受付時間：9:00～12:00、13:15～17:00(土曜、日曜、祝祭日、休業日を除く平日)
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学アドミッションセンター
電話：029-853-7385 FAX：029-853-7392
メール：ac-img@ml.cc.tsukuba.ac.jp

人文学類ウェブサイト(<https://www.jinbun.tsukuba.ac.jp/>)もぜひご覧ください。

授業紹介、学生インタビュー、よくあるご質問など、本冊子にはない情報をご覧いただくことができます。